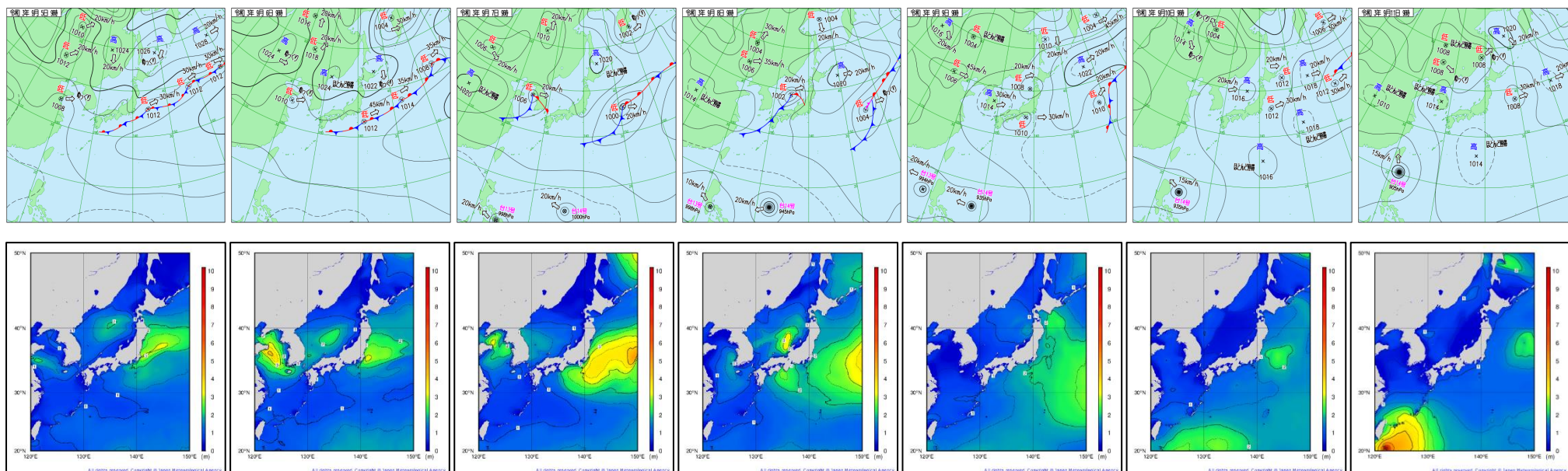


■天気図と沿岸波浪図 (9月5日～9月11日 ※毎日午前9時を掲載)

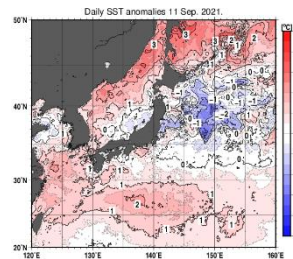


■気圧配置と波

5～6日、前線が四国沖から伊豆諸島付近を通して、日本の東に停滞した。太平洋側は関東の東～三陸沖にかけて波高2m前後の高波となった。7日、前線を伴った低気圧が日本の東を東進し、太平洋側は関東の東を中心に波高3m以上の高波が継続した。8～9日、別の前線を伴った低気圧が日本海を東北東に進んだ。日本海は能登半島沖を中心に波立った。太平洋側は広い範囲で波高2m前後となった。10日、低気圧が関東の東を東北東に進み、太平洋側は房総半島沖で波が高かった。11日、台風14号が沖縄の南を北上し、南西諸島近海で波が高まった。

■海面水温

今期末にかけて、日本海海面水温は平年並みか、平年よりやや高い状態が継続した。東シナ海では、海面水温が平年よりやや高かった。太平洋側は、黒潮が流れる四国沖で海面水温が平年よりやや高い範囲が広がった。東海道沖では、平年よりやや高い状態が継続したが、関東の東にかけて平年並みの範囲が広がった。親潮が流れる三陸沖は、海面水温が平年よりやや低い範囲が広がった。北海道南東方では、平年並みか平年よりやや低かった。



■海流の予想

黒潮は、九州東岸では引き続き接岸して流れる。足摺岬、室戸岬、潮岬では、引き続き離岸して流れる。東海沖では、潮岬沖を南東に流れ、最南位置は30°N、138°E付近となる。伊豆諸島付近では、引き続き三宅島付近を流れる。房総半島では、引き続き接岸して流れる。

親潮の南限位置は、40°N、147.5°E付近になる見込み。親潮の面積は平年より小さい。対馬暖流の勢力は平年並みか平年より強い。

